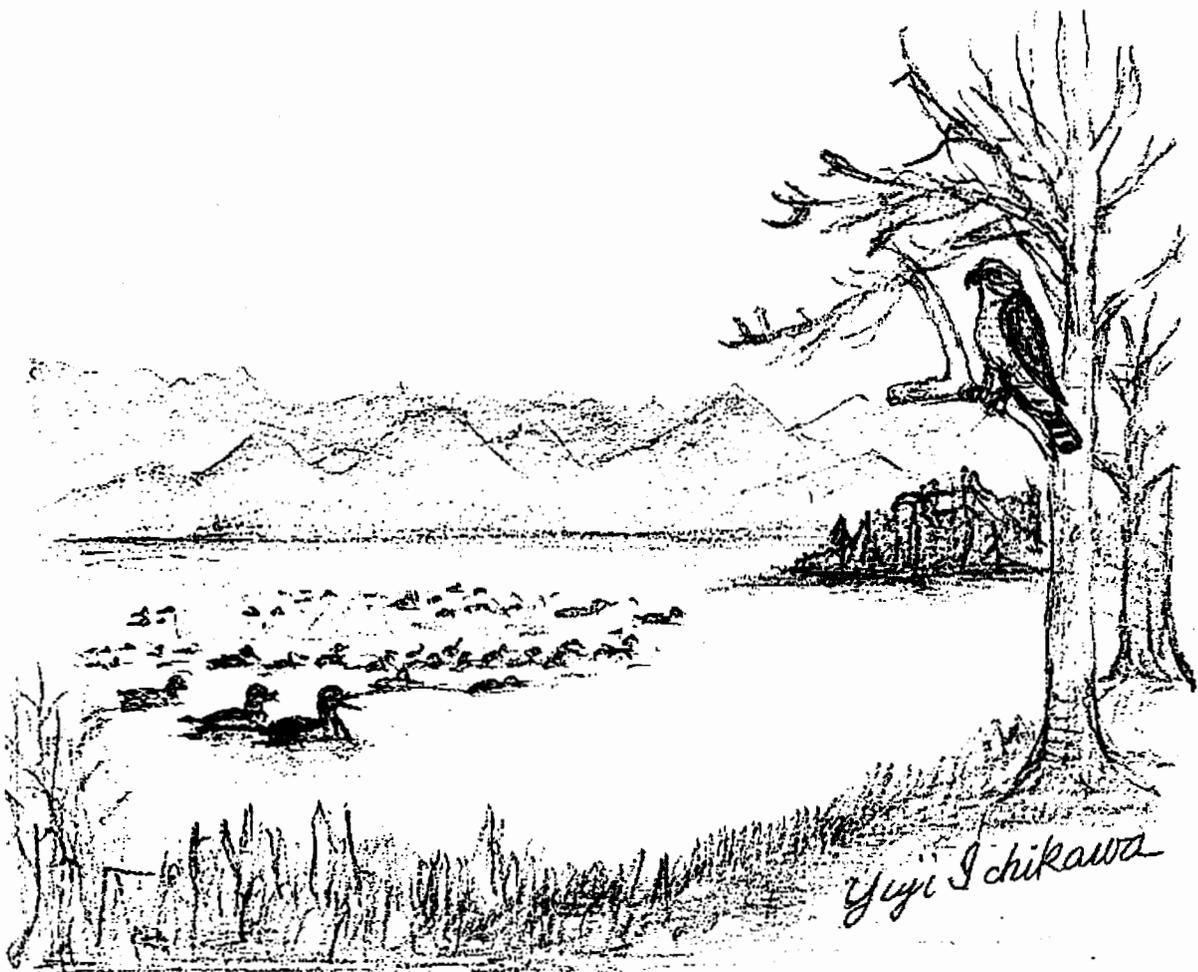


# いさご

第26号



2000年 2月

(財)日本野鳥の会 三重県支部



特集：川と野鳥と…



川は、私たちにとって最も身近な野鳥観察の場です。

視界が開けていて野鳥を見つけやすい、河畔には藪や林が茂っていて野鳥の数が多く、開水面では水鳥の姿も容易に観察できる、などがその理由ですが、それは裏返せば、野鳥たちにとって川がいかに重要なものであるかということの証明でもあります。野鳥にとって川は、食物を得るための場であり、繁殖するための場であり、敵から身をひそめるための場です。また、移動するための経路でもあり、もちろん水飲み・水浴びのための場でもあります。多くの野鳥たちが、川の自然に依存して生活しているのです。

川の自然はまた、人の営みと切っても切れない関係にあります。野鳥たちが川に依存しているのと同様、人間も生活用水、農業用水などの多くを川から得ています。使ったあとの水を川に流してもいます。私たちと野鳥たちとは、川の水を介して深く結びついているのです。それだけではありません。人間には、川を利用するため（利水）、また川の氾濫から生活を守るため（治水）に、川をさまざまに改修してきた歴史があります。それらの行為も川の自然を大きく変え、野鳥など川の自然に依存する生き物の生態に影響を及ぼしてきました。

さて、三重県にも数多くの川があります。自分の町を流れる川に愛着を持ち、フィールドにして  
いる会員の方も多いでしょう。今回は、そういう皆さんからの声を集めてみました。

揖斐川の鳥たち

村田 芳雄（桑名市）

揖斐川は、徳山ダムで問題になっている藤橋村の標高1257mの冠山から流れ出る全長121km、流域面積1840キロ平方メートルの川です。ダム建設が進んでいる山の斜面には、水資源開発公団の調査ではイヌワシが5組、クマタカが7組も見つかっていると言うことです。今春、本体工事に取りかかろうとしています、クマタカの巣立ちは年々減り、一昨年と昨年はゼロとなってしまいました。

そんな自然豊かな谷間から流れ出た揖斐川は、木曾三川公園のあたりで木曾川と長良川と肩を並べるようになりますが、ちょうどこのあたりの揖斐川堤防で、三重県支部の探鳥会が行われています。

付近は葦が沢山茂り、大小の中州があり、その間を本流から分かれた流れがゆったりとすぎっていきます。やわらかな冬の日差しにつつまれた葦原の上にはチュウヒが舞い、ノスリが中州の木の枝にじっと止まっています。時にはミサゴが何度も流れにダイビングしたりします。カワウが、川の流れのように何百と上流に向かって飛んでいくのに出くわすこともあります。葦原

にオオジュリンの姿を見ようとするのですが、なかなか見つからず、ホオジロやスズメだったりします。それでも時には、7、8羽のオオジュリンが一緒になって、葦の茎をつついていのお目にかかることもあります。干潟にはダイサギ、コサギ、アオサギ、タゲリ、イソシギ、タシギなどがいます。オオタカやハヤブサが頭上を横切ることもあります。

川はゆったりと流れていますが、川面にはカモの姿はありません。カモは、禁猟区の木曾川と長良川に何千と羽を休めています。コハクチョウも来ます。揖斐川の中州には、葦を折り合わせた仮小屋に鉄砲をもった猟師がひそみ、狩猟の機会をうかがっています。たぶん、“game”のために、このあたりの揖斐川は、三重県に属し狩猟区域となっています。時々、発砲の音が聞こえます。木曾川、長良川よりも自然の残っているところ。早くカモたちが安心して羽を休めることのできる川にしたいものです。

## 市街地を流れる海蔵川

尾畑玲子・高和義（四日市市）

海蔵川は、四日市市を流れる主な川（北から朝明川、海蔵川、三滝川、内部川）の一つで、鈴鹿山系笠岳山麓に源を発し、霞コンビナートの南で伊勢湾に注ぐ、全長約20kmの中小河川です。

海蔵川の名の由来は、海蔵地区市民センターの資料によれば、①太古阿倉川が海岸であった頃、浜辺に海人の蔵一海蔵〔アマグラ〕があり、銅和6年（713年）頃人の一字を除き海蔵となった説。②仏典より出た説…全国に海蔵の名を冠するお寺が多い。③海草から来た地名〔カイソ〕等あると言うことです。

上流の大部分は田園地帯を流下し、川の両側には麦畑や田圃が広がり、疎らな林や大きな寺院がある村落が点在し、牧歌的な景色が見られます。堤防際には葦や雑草が生えており、ツリスガラ、カシラダカ、アオジ、カワセミ、セキレイ類、が観察されています。

中流は国道365号線に沿って流れており、代官橋から老人ホームまでの間は探鳥会や重要保護地の調査をしている場所です。小規模な河岸林があり、疎らなヤナギ類が生えており、河川敷にはツルヨシ、マコモ、ガマ等が見られます。バンが繁殖し、イカルチドリ、カワセミ、セキレイ類、ササゴイ、アオジ、カモ等が生息しています。

左岸は河岸段丘前に水田が広がり、チュウサギを含む多数のサギ類や、ケリ、ツグミ等が観察されています。探鳥会と重要保護地域の調査は、2000年も継続される予定です。

三滝新川合流点では葦原でオオヨシキリが繁殖し、水辺にはサギ類、カモ類、カイツブリ等が観察され、時折ササゴイが飛来し流れの中で魚

を捕っているのを見かけます。

下流は四日市市の北部市街地を流れ、河口付近は冬季カモ類が飛来し、毎年ガンカモ調査の対象地域となっています。

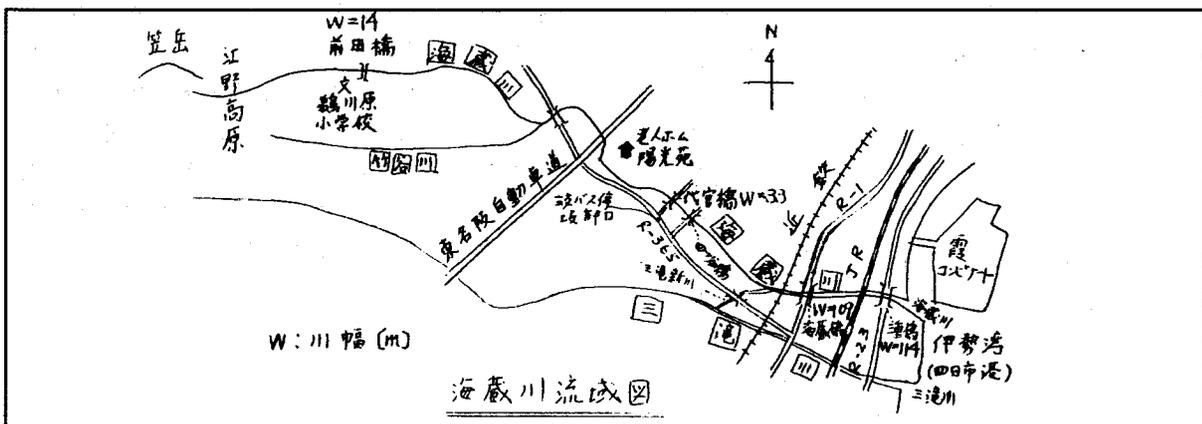
河口から四ッ谷橋までは川幅拡張工事が完了し、残念ながら十数年前の構想のままコンクリートの護岸や階段が水際まで迫り、河川敷も公園化が進んでいます。また代官橋のすぐ下流では可動堰の工事中で、自然環境破壊が心配されます。

代官橋から上流の上・中流では水質も綺麗で、かなりの堤防が手つかずで昔の土手として残っています。現在では未だ本格的な改修の手は伸びてきてはいません。何とかこの豊かで純朴な美しさを持つ自然を残すよう、関係先に働きかけていかなければならないと思っています。

## 三滝川観察記

矢田 栄史（菰野町）

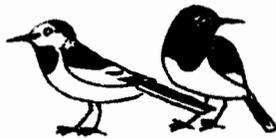
入会以来6年になります。探鳥会や自然観察会に参加していろいろ教わり、野遊びを趣味にしています。菰野町の三重県民の森と三滝川をフィールドに月数回出かけます。R306の菰野大橋のすぐ上流部ここがポイントです。春はセグロセキレイの子育てやキアシシギ、キビタキが渡りの途中に立ち寄ったこともあります。夏は鳥は少ないようで、もっぱら昆虫を見ている。オニヤンマ、ギンヤンマ（産卵も）ハグロトンボ、ウスバキトンボなど。秋から冬はベストシーズン。冬鳥たちの登場です。ジョウビタキ、ツグミ、カシラダカ、ミヤマホオジロ、ベニマシコなど。ときにはハイタカやチョウゲンボウも姿を見せます。アキアカネの産卵を見つめ、マヒワの群飛に歓声をあげたことも。



平成8年秋にこの場所で2面張り河川敷を更地にする工事が始まりました。目の前で、重機がブッシュをなぎ倒し、地面を掘り起こしていくのです。何とかしたいと思い、四日市土木事務所へ行き図面を入手すると、河川敷を公園やグランドにする計画のようです。野鳥の会の人たちにこうした話をして、保護部で現地を見てもらったりしました。

3年が過ぎ、川岸にはびっしり植物がおい茂り、河川敷にも緑が戻りつつあります。改めてこの国の植生に驚くとともに、さらに回復して欲しいと願います。多くの発見、感動を与えてくれる三滝川。すぐ西には鈴鹿山脈の雄姿も望めます。ここで観察した野鳥は50数種類にのぼります。

これからもこの川を、四季それぞれにずっとみていくつもりです。



## 私のフィールド

### —鈴鹿川中流の春夏秋冬

伊藤 多紀子 (亀山市)

私のフィールドは河口より20～24km遡った所です。西側に鈴鹿の山々が連なり、右岸には田んぼと里山が連なっています。川幅の割に河原が多く、水量は少なめです。伏流水が多いと言われ、亀山市はこれを水道水として取り入れています。一年を通じてカワウ、セキレイ類、イソシギ、カワセミ、サギ類、時にはキツネの親子、ノウサギ、イタチが見られ、流れの音を聞き、草花を観察することができます。

春—堤防には桜が咲き、エノキ、ムクノキ、ケヤキ、杉その他の木々が芽を吹く。河川敷にはハリエンジュ、ウルシ科、蔓性植物が生えています。右岸には竹藪が自然の姿で堤防の役割をし、コジュケイ、ホオジロ、ウグイスの住みかとなっています。

春～夏—河原には、イカルチドリの子育てを見ることができます。岸にはツルヨシが繁り、流れにはオイカワ、カワムツが群れをなして泳いでいます。夏の早朝には川霧がたち、その流れる方向に目を向けていると、穏やかに時が流

れ、夢の中にいるような心地になる。ふと我に戻ると、オオヨシキリ、セッカ、ツバメが辺りで囀っている。

秋—堤防にはヒガンバナ、ツルボ、カワラマツバ、ツリガネニンジン等の花が咲き、木々は実を付け小鳥を呼ぶ準備をしています。河原には、セイタカアワダチソウ、ススキ、タデ類、カワラハハコ等が咲き、徐々に実を付け始めます。水辺の葦もすっかり穂を突らせ、風になびかせています。

夕暮れには、鈴鹿の山並みがグラデーションで包まれ、自然が織り成す光と影の雄大なアートを見ることができる。今秋も、残照の中、夕靄が麓の村に流れ行く光景を見て、感動の連続だった。

冬—錫杖岳方面から鉛色の雲が出て雪を降らします。草木は葉を落とし、川幅が広く見える季節です。前夜冷え込んだ朝は、鈴鹿山脈が手に取るように美しく輝いて見えます。川風は冷たく頬を刺すが、川は眠らず悠々と流れています。

私の想い—この恵みに感謝し、次世代に続くようお願い、川を見守っていきたい—。今年の3月、鈴鹿川河川敷出張所へ、「河原への車の乗り入れが、イカルチドリの子育て妨害やカメの卵の踏み潰しとなっている。焚き火やゴミの放置もあり、河原が破壊されている。河原へ自動車が入らないようにして下さい。」と電話で要望したところ、鉄柱に鎖を張り、車輛の進入禁止という成果を得ました。

◇ 観察記録から… (本文中に出ていないもの)

春と秋の渡り—アオアシシギ、キアシシギ、ツリスガラ、コムクドリ

夏鳥—コアジサシ、ヒクイナ、クイナ、ササゴイ、アマサギ、チュウサギ、コチドリ、ノビタキ

冬鳥—タゲリ、クサシギ、タシギ、ツグミ、カシラダカ、タヒバリ、ジョウビタキ

留鳥—オオタカ、ハイタカ、ノスリ、ハヤブサ、カルガモ、カイツブリ、ゴイサギ、シロチドリ、キジ、キジバト、ヒバリ、ヒヨドリ、モズ、ムクドリ、ハシボソガラス、ハシブトガラス

## 中村川—この母なる川

久住 勝司 (嬉野町)

高須の峰に源を発する水流は、途中幾多の水流を集めて雲出川への合流まで約25.5kmを町内のみを流れる、いわば嬉野町の母なる川なのである。その流域には縄文時代よりの遺跡が数多く点在し、最近話題になった2世紀の「田」と書かれた日本最古の墨書土器が発見された貝蔵遺跡等に代表される。このあたりは昔から豊かな自然にも

恵まれ、野鳥の数も多い。

その第一ポイント、雲出川合流点より3kmの標識のある川辺には年間を通してイカルチドリが群れ、セキレイ類、サギ類、天気の良い日にはカワラヒワ、ヒヨドリ、ムクドリ等が水浴びシーンで心を和ませてくれるだろう。そしてオオタカ、ミサゴ、ノスリ、チョウゲンボウも姿を見せ、近くの森からコジュケイ、キジ、ウグイスの声も聞かれよう。以前、このあたりには葦原が広がりカルガモ、カイツブリ、オオヨシキリ、セッカが繁殖しクイナ、バン等が観察され、堤防にオオキンケイキクが咲き乱れる頃、カッコウが托卵に来ていたのを思い出す。だが、昭和57年の大雨により、左岸堤防が決壊しコンクリートで護岸工事がなされた。その右岸は平成10年、改修工事が蛇籠による多自然型河川工法で行われ、石の間から雑草が生え、対岸と対照的な姿となっている。今は石原が広がり渡り鳥の中継地としてムナグロの群、アオアシシギ、コアシシギ、オオハシシギ、タシギ、サルハマシギ、オジロトウネン等、シギ・チドリ類が姿を見せ、オジロトウネンはそのまま越冬していて、野鳥がいかに関境に左右されるかよい例となっている。今後も環境保護の意識をもって見守っていきたいと思っている。

中流域では、ヤマセミに期待しよう。宮野地区にある堰の架線上がポイントとなる。夏になればコシアカツバメが舞い、少し奥に入るとサンコウチョウの声も聞かれる。上流の溪流では、やはりカワガラスだろう。そのポイントは「山ゆりの里」の支柱のある所が中心となる。川面が紅葉に染まる頃より早春の繁殖期がベストだろう。その他にカワセミ、キセキレイ、カケス、カラ類も見られる。

今までこの中村川で見られた野鳥は80余種



になっている。上流部まで川に沿って道が続いており、迷うこともなくドライブ気分で探鳥が楽しめるので、是非お勧めしたいところだ。そして、帰路につく前に「ふるさと会館」に立ち寄って、いにしえからの贈り物、「墨書土器」「鷗尾」等を鑑賞してほしい。きっと静かな感動が生まれることだろう。

## 櫛田川中流域に住んで

西村 四郎 (飯高町)

私の住む飯高町下滝野集落は、櫛田川の中流域にあたります。川幅はわりと広く、河原があり、車で降りることもできる場所です。住居も川の近くにあるので、土・日には犬の散歩をしに、河原をぐるっと回るのが習慣になっています。今回は、ここに住む鳥たちのことを書きます。(ただし、双眼鏡でちゃんと見ることは少なく、記録をつけているわけではありません。)

〔春〕 まだ暗いうちから明るくなるまで、アカハラがよく鳴きます。渡りの途中なのか、アカショウビンの声もたまに聞こえます。ゴールデンウィークの頃は、アマツバメが上空を舞い、どこへ行くのか、2週間ぐらい姿を消します。河原ではイカルチドリが繁殖をしていますが、このごろ犬を放す人がいるので、無事に成功しているかどうかは不明です。

〔秋〕 ちょうどサシバの渡りのルートになっているので、根気よく双眼鏡で眺めていると、稜線を渡っていくのが見えます。しかし、小さすぎて正確にカウントするのは無理です。稲刈りが終わるとハザに止まっているノビタキを見ます。

〔冬〕 河原では、雑草の種を食べているホオジロやアオジ・カシラダカを見ます。夏にはうるさい雑草も、今は「いいやつ」です。2月頃からフクロウの声が聞こえます。カワガラスの声も元気に聞こえます。

〔20年前と比べて〕

あのころは双眼鏡もなく、野鳥の識別能力もなかったけれど、種類・数とも今はかなり減っていると思います。逆に昔いなかったけど今いる鳥もいます。コサギ・アオサギ・ムクドリ・ドバト・ケリ・カワウ・カイツブリ。

上流に蓮ダムができたのと、家庭の雑排水が、川の汚れの原因となっていると思いますが、合併浄化槽が整備され、きれいな川を取り戻したいものです。

## 五十鈴川（宇治橋から 仙人下橋）を歩く

吉居 瑞穂（伊勢市）

五十鈴川は神宮林を水源とし、伊勢の東側を二見町にそそぐ川です。中流以下はコンクリートによる護岸で固められていますが、宇治橋より上流域の大部分が神宮林であるため、かなり自然の姿を残しています。川に沿って県道が通っていますが、ここはぜひ車から降りて歩いてみてください。木々の枝越しに見おろす五十鈴川の溪谷が四季、楽しめます。

春、木々の芽吹きやかな色につつまれて歩きはじめると、カジカの涼しげな声が聞こえ、忙しく動きまわるメジロやカラの群れが出迎えてくれます。ヤマガラなのんびりしたさえずにイカルやアオゲラの声もきこえるかもしれません。4月下旬から5月にかけては、オオルリの美しい声と姿に出会えるのも楽しみです。

水辺に近付けるのは飛び石と雲出谷の2ヶ所です。飛び石に降りて目をこらすと、エサを探すカワガラスがいます。流れにダイビングをくりかえすカワセミの姿を見つけることもできるでしょう。飛び石で見られなかったら、きっと雲出谷にはいるはずですが、また運がよければ、ヤマセミに会うことができます。「キャラ、キャラ…」という声を聞きのがさないように歩きましょう。

川岸のモミジが紅葉する初冬、冬鳥がやってきます。ルリビタキに会えたら「ラッキー！」ですね。このコースでは、山野草、木の実、きのこ、昆虫、動物の痕跡など、四季折々の発見と楽しみがあります。

しかし最近、宇治橋から雲出谷にかけて河川改修が行われ、川の流れが均質になってしまいました。護岸は自然石で造られていますが、目地がコンクリートで固められています。さらに上流への工事がされなかったことや、一部近自然工法が取り入れられたこともあり、最近、土砂が堆積し、淵や瀬ができて、自然の状態にもどりにかけているところもあります。今後、どのように変化していくのか、見ていきたいと思えます。

## 宮川のほとりで思うこと

小坂 里香（度会町）

宮川は、日本最多雨地帯といわれる大台山系に源を発し、伊勢市で伊勢湾に流れ込む一級河川です。流域すべてが県内であること、水質の高さ、規模の大きさからいって三重県を代表する川と言えるでしょう。この宮川に一目惚れして、川を見下ろす土地に居を構えて五年あまりになります。

宮川の野鳥たち…。冬季、河口に集まるカモ・カモメ類、旅鳥といわれるシギ・チドリ類、初夏には支流の沢で聞くオオルリなどの夏鳥の囀り、カワガラスのビッビッという声。また、四季を通して愛らしい姿で楽しませてくれるセグロセキレイ、カワセミ、イカルチドリといった水辺の鳥たち…。中流より上では、ヤマセミの姿を目にするチャンスもあります。伊勢市内の度会橋付近では、秋の落ち鮎の季節になるとカワウやコサギが群をなして現れ、釣り糸をたれる人々と共に釣果を競います。河口ではミサゴがボラを狙ってダイビングをくり返し、どこからともなくセッカのヒッヒッという声が聞こえてきます。いずれも宮川の自然あつての暮らしを営んでおり、川が人間だけのものでないことを教えてくれます。

河口の大湊はかつて、堤防内に養鰻池が点在し、越冬の野鳥がたくさん羽を休め水鳥が繁殖していました。今では池は埋め立てられ、住宅地として開発されて、その面影はありません。支部の大湊探鳥会も、そういう事情のためと干潟まで遠くて観察しづらいため、年々魅力の乏しいものになっている気がします。

平成10年度より、県のプロジェクト「宮川ルネッサンス事業」が展開されていますが、その実態は私達流域の住民にとってさえ、未だによくわからないことだらけです。清流宮川を情報発信していこうという県のかけ声に、地元の人には笛吹けど踊らず、というのが正直なところなのではないでしょうか。豪華なパンフレットの作成などイメージづくりが先行する一方で、地元ではまだまだ、経済発展に直接結びつくような公共事業としての側面だけが期待されているような気がします。 どんどん進む水質の悪化をストップさせること、それが事業の最優先課題だと個人的には思っています。

## 川の自然保護の思い出

武田 恵世（伊賀の國）

川の自然を守るには、行政や地元住民の説得がたいへんです。しかし、長年の努力の甲斐あって、きちんと話をすれば、自然保護の話は通るようになってきました。伊賀地方では県建設部の工事でコンクリート護岸はほぼ皆無です。もはや、自然破壊をどうしようもないと嘆くだけの時代ではなく、直ちに当局と話し合いに入れる状況にあるのです。伊賀では協議によりこの1～2月だけですでに造成工事2件を中止、河川改修、道路建設各1ヶ所が再検討されました。3月から県に「環境にやさしい公共工事」の講演に行き、同テーマの協議会を開催します。

今は思い出となった約10年前の交渉の一部をご紹介します。

県課長：「日本は急流で、台風が来るから、平野ばかりの欧米とは違い、近自然工法など無理です。」

武田：「確かに台風はありません。しかし、アルプスは日本とは比較にならない急峻さで、その感覚では鈴鹿山脈など丘陵に過ぎません。また、氷河からの雪解け水は膨大で毎年水量が3倍以上になります。岩盤が増水で震動するほどのすさまじさです。台風は来たり来なかつたりしますが、雪解け水は毎年来ます。それでもスイス、ドイツでは近自然工法が発達し、川にはコンクリートを使わない技術が定着したのです。」

県課長：「——。」

県課長：「河川の樹木は残せません。」

武田：「伊賀の川の竹林は鎌倉時代に重源上人によって造られたものです。当時大仏殿や都の造営に伊賀の巨木を運ぶ方法が、ダムを造って水と巨木をためて、決壊させて一気に流すという方法で、そのため川はめっちゃくちゃになったので、これではいかんと中国からタケを取り寄せて植栽したのです。タケだと地下茎が密に張り、しなるので巨木が当たってもかわせたのです。巨木入りの大洪水から護岸を800年間守って来たのです。」

県課長：「はじめにそれを聞いていれば私は竹林を切ったりなど絶対しなかった。」

武田：「では今からでも植え直して下さい。」

県課長：「それは——。」

最後に、スイス、チューリッヒ州建設省の方針を紹介します。1. 既成事実は勇気をもって問題視する。2. 秩序はより少なく、多様さはより多く。3. 規格はより少なく、創造力はより多く。4.

自然に手を加えることは最小限に止め、手を加えた場合はその埋め合わせをする。5. 生態学的拠点を生態学的かけ橋によってネットワークする。

河川工事の理念も、まさにこれに尽きます。

## 海・山のバードウォッチング

北川 直人（海山町）

海山町を流れる主な川に、銚子川と船津川がある。どちらも大台ヶ原の山々を源として熊野灘に流れ込んでいる。この地方はご存知のとおり日本有数の多雨地帯であるが、大雨が降っても一時的に河川の増水があるが、あっという間に平常の水位まで戻ってしまう。人づてに聞いた話だが、酒を入れる銚子が倒れたとき中に入っている酒が急激に流れ出しスーと勢いがひいてしまう。これが銚子川の名前の由来であるという説である。

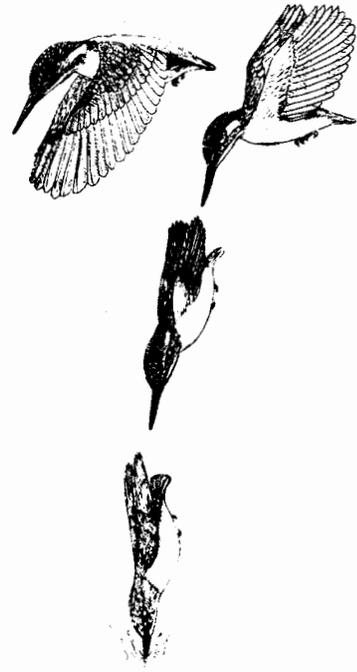
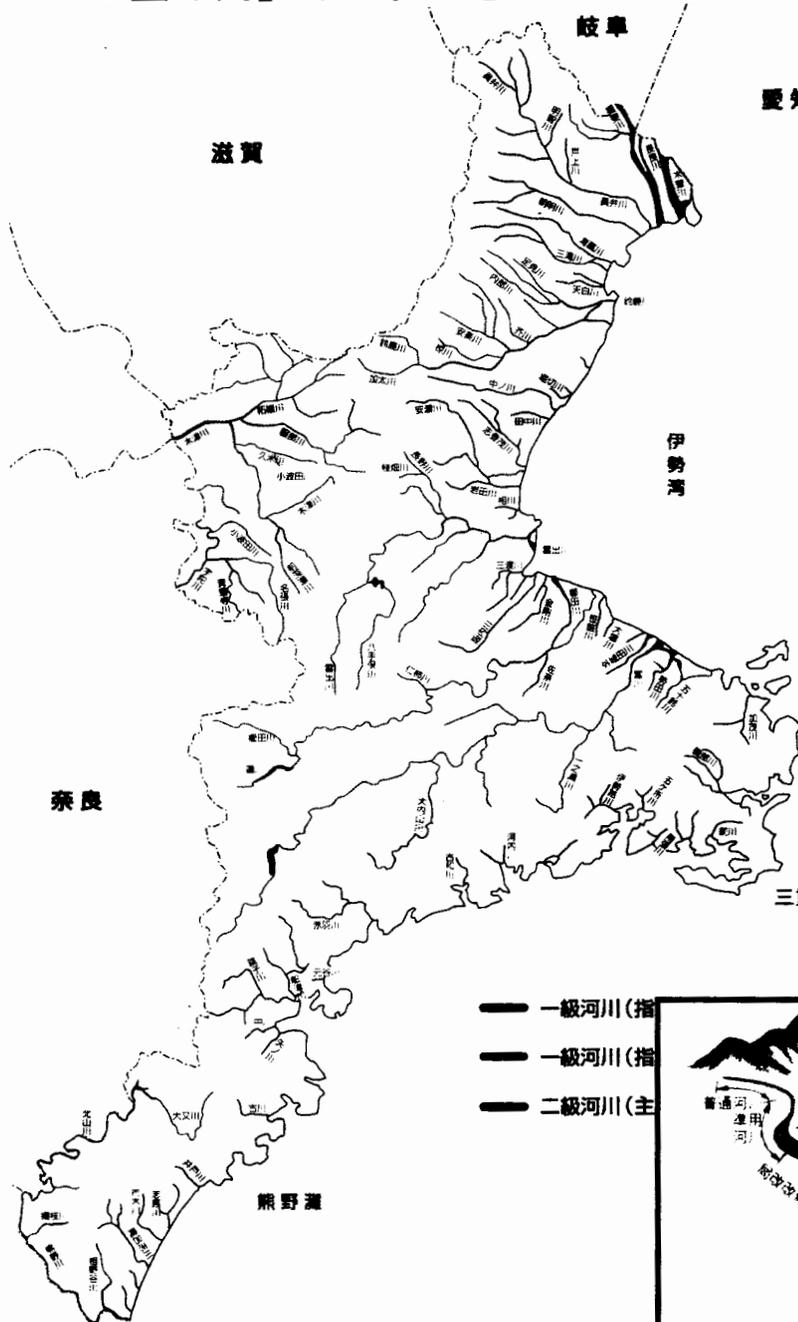
私の鳥見のフィールドは、主にこの二つの川の流域にある。二つの川ともまだまだ自然は残っているものの、ご多分にもれず治山治水の名のもとにコンクリート護岸と化してきている。出来るものならこれ以上のコンクリート護岸は勘弁してほしいものである。

さて、当地方でのバードウォッチングであるが、野鳥の種類はきわめて少ないと感じている。伊良湖岬から紀伊半島への渡りルートからは南へ外れてしまっていて志摩半島から大阪・和歌山方面へ山を越えてしまい、当地方には寄らないのではないだろうか。またシギチドリが休息できる干潟もない。町の90%を占める山林にたくさんの野鳥が出ているかもしれないが、山が深いのに加え、鳥を見る目が少ないため見過ごしている可能性は充分にある。ただ、源流から河口まで距離が短いため、上流域の鳥（ヤマセミ等）から河口・海の鳥（カモメ等）まで幅広く観察可能である。種類としては少ないかもしれないが、そんな海山町近隣でのバードウォッチングは趣のあるものかも知れない。そして二つの川ではのんびりと楽しく鳥見が出来る。私が公開しているインターネットホームページはこの二つの川をベースとして撮った写真がほとんどである。

北川 直人 @Mie.Kitamuro.Miyama

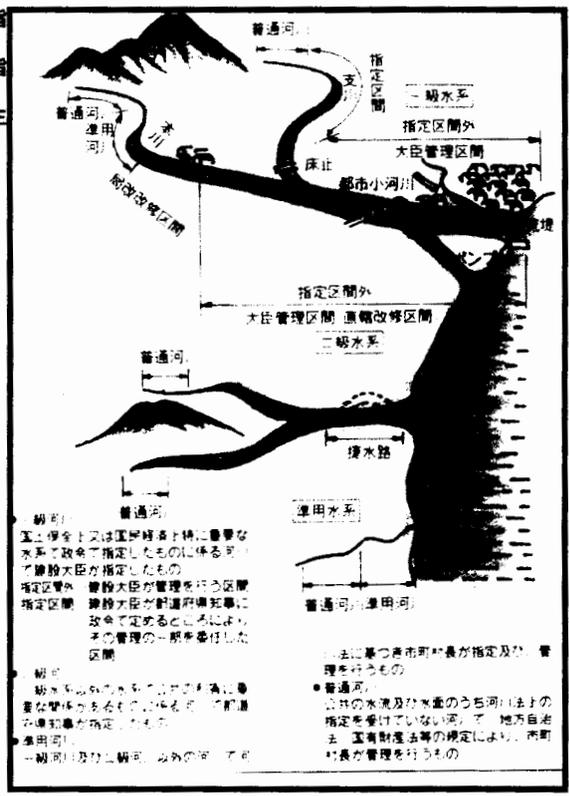
「三重の川」のこれから

身近な川に関心を持とう



資料：「三重の河川」  
三重県県土整備部河川課平成10年度版

- 一級河川(指)
- 一級河川(指)
- 二級河川(主)



一昨年、河川法が30余年ぶりに改正され、従来の利水・治水の概念に加え、「環境」という視点があらたに導入されたことは、ご存知のかたも多いかと思えます。これは大きな前進ともいえますが、昨今の河川整備事業をみると、自然保護の立場からは十分なものとはいえません。環境に配慮するとはいってもまだまだ近自然工法は試行錯誤の状態ですし、コストもかかります。人間の目で見て自然な川になっても、生き物たちにとって住みやすいかどうかの問題もあります。「自然とのふれあい」を大義名分

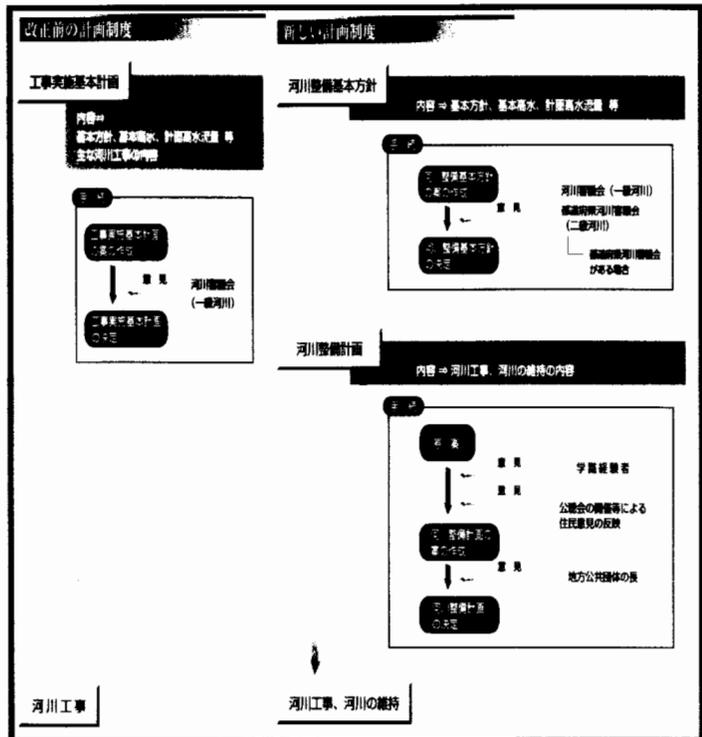
● 普通河川  
国土保全部又は国土経済部等に重要な水系で政令で指定したものに係る河川で建設大臣が指定したもの  
● 指定区間  
建設大臣が管理を行う区間  
● 指定区間外  
建設大臣が都道府県知事に政令で定めるところにより、その管理の一部を委任した区間  
● 普通河川  
排水路以外の河川で、河川法第1条第1項第1号に規定する河川に該当するもの  
● 普通河川  
公共の水流及び水圏のうち河川法上の指定を受けていない河川で、地方自治法、国土計画法等の規定により、市町村長が管理を行うもの

として、川の自然の中に不自然な施設や、植生などを持ち込み生態系を圧迫している例も見られます。また、市街地では土地買収の困難もあり、まだまだ増水時のスムーズな流下を最優先した川づくりが行われています。さらに、河川の工事にあたって公聴会などで住民の意見を取り入れるとはいっても、その意見がどう反映されるのかは事業主体者の判断にかかっています。先ごろの吉野川河口堰の住民投票の結果に対する建設省の対応をみても、そのことがよくわかります。

しかし、同じ吉野川の例でもわかるように、住民の関心の高さは世論を動かし、事業を進めるにあたって無視できない力になります。

三重県では、新河川法に基づき、河川の整備事業にあたって住民へのアンケート調査や、「流域懇談会」を実施し、さらに計画案を公告縦覧して住民意見を求めるとしています。「流域懇談会」の委員は県の建設部長が選定するそうですが、地域で活動する自然保護団体などのNPOにも参加のチャンスがありま

河川法改正に伴う河川整備計画の変化  
資料・建設省河川局監修「新しい河川制度の構築」(平成9年)



コーヒースレイク 川の自然は手つかずか？

河川の自然保護を訴える際に、心にとめておかなければならないことがあります。それは、下手に「川の自然は手つかずで貴重」と主張すると、信用を失いかねないということです。

河川の流域は地形がよく変わります。川に多いヤナギ類やケヤキ、エノキなどは成長がたいへん早く、戦後植えられたか、自然に生えて森林になっているものがほとんどです。ここで注意すべきことは、その根本にコンクリートブロックや蛇籠が埋まっている例がたいへん多いという点です。それでわかるように昔から川には人の手が入っていたということを念頭におかなければなりません。事実、川のそばに住んでいる年配の人は、流路が何kmもずれていたり、木が生えていなかった時期の川を知っていることが多いのです。そこに、「川のヤナギ類やケヤキ、エノキなどは手つかずの貴重な自然。」と言うと、「やつらは何も知らない。」とバカにされ、相手にされなくなることがあるのです。

川の治水工事はコンクリートが多く使われた昭和40年代以前はなかったわけではなく、既に弥生時代から、河内潟(古代大阪平野にあった汽水湖)の干拓や淀川の茨田の堤建設など盛んに行われていました。江戸時代にも大和川や利根川、木曾三川など大河川を付け替えるという大工事が行われていたのです。三重県でも古くから治水工事が盛んで、マンボ(わき水を導く長い長い地下水路)など特徴的な工事が多かったのです。例えば、三滝川中流では堤防がなく、河川敷の境目がわかりにくいように見えます。それは霞堤と言われる堤防の造り方で、一部堤防が二重になって、その間を開け、そこからあふれさせて、遊水機能を持たせ、居住地域の浸水を防ぐ方法です。

このように、川の自然は手つかずの原生自然というわけではありません。自然保護運動の際は、この辺を知った上で交渉に臨む必要があります。

しかし、だからといって川辺の森(河畔林)が自然として価値がないということではありません。元々伐るために造られた森ではなく、公有地で、近代に入ってから土地の境界がはっきりしない場所だったので、自然林に近い巨木の森が発達し、生き物にとって重要な生活環境となっています。また、治水上でも、洪水の力を和らげる効果が認められています。滋賀県の琵琶湖博物館ではジオラマでわざわざ河畔林を館内に復元し、その価値を訴えています。川辺の森はまさに、「貴重な自然」なのです。

武田 恵世(伊賀の國)



## 保護部だより

### 活動報告

#### 1、鳥獣保護法改正

「鳥獣保護及狩猟ニ関スル法律」の改正法案が昨年6月国会を通過。その内容は、元来の狩猟法に野生動物保護を盛り込んだもので、ポイントとして地方分権法に基づく権限の地方委譲と、特定鳥獣保護管理計画（個体数のコントロール中心）がある。生息の実態が十分に調査されないまま、自治体の裁量によって有害鳥獣駆除の名のもとに狩猟が許可されやすくなり、地域個体群に大きな影響を与える懸念があるため、野鳥の会等のNGOが問題点を指摘した結果、施行3年後の見なおしとガイドライン策定へのNGOの参加が認められることになった。

自然環境課によると、三重県についてはすでに委任規則により、一部の種について権限を市町村に委譲しているため、法が改正されても実態はそのまま条例化されるとのことで、一般からの意見聴取の機会も設けていないとのことであった。（特定鳥獣保護管理計画については、来年度地元関係団体やNGOの意見聴取の機会を設けるとのこと。）

支部では、「野生生物保護法制定を目指す全国ネットワーク」に加入し、1999年12月に「鳥獣捕獲許可権限委譲の条例化に伴う野生生物保護行政に関する要望書」を提出した。さらに、委員会を設けて他の自然保護団体と連携し、情報収集などを行うことにした。

#### 2、自然環境保護地域調査

支部ではこれまで、県内40ヶ所あまりの地域

について調査を行ったが、調査地域・調査のあり方等を見なおし、とりまとめ方法を新たに検討した。その結果、調査マニュアルを作成し、地区の担当者を選定して2000年1月より、調査を行うことになった。

#### 3、シロチドリ保護事業

吉崎海岸：植生が昨年と同じく繁茂しており、シロチドリの繁殖は難しい状態。看板・保護柵を設ける許可を取り、柵は繁殖の様子を見て設置するかどうか判断したい。

豊津浦海岸：昨年と同じように看板と保護柵を設置する。ただし、昨年、県が看板の通年設置を許可しなかったため、県の態度をただすとともに、通年設置の許可を申請する予定。

#### 4、宮川流域ルネッサンス事業

事業のシンボルプロジェクトとされる「奥伊勢フィールドミュージアム」構想については自然破壊の可能性をはらんでいるため、理解を深めるとともに対策を検討したい。

1月30日に松阪市内で「ルネッサンス事業」をテーマに県の「出前トーク」を開催した。

#### 5、斎宮池問題

多気郡明和町の農業用溜め池「斎宮池」において、整備・拡張計画が進行中であるが、その工事にかかる環境影響評価方法書の説明会に1月26、27日の両日参加した。（西村 泉）

3月10日までに意見書を提出するため、方法書の閲覧を予定している。

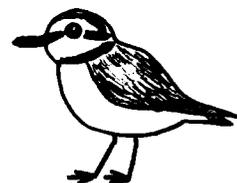
### 募集！！シロチドリ保護活動に参加しませんか？

県の鳥・シロチドリが安心して繁殖できるように、繁殖地周辺に保護柵（ネット）を張ります。多くの方に来ていただければ、1時間ほどで作業は終わります。この時期、保護地の海岸周辺では、カンムリカイツブリやホオジロガモなどの水鳥やミユビシギなどのシギ類、カワウの繁殖などが観察できます。バードウォッチングがてら参加してみませんか？

シロチドリのためにみんなで汗を流しましょう。

日時・場所：3月18日（土）10:00、田中川右岸（カワウコロニー前）集合  
※国道23号線沿い、河芸町のスーパー・オークワ南から海岸方向に入って堤防に突き当たり、すぐ左手になります。

持ち物：軍手・カケヤ（あれば）、軽食、水筒、防寒具等。双眼鏡も忘れずに…。



編集後より

● 25号の補足と訂正 ●

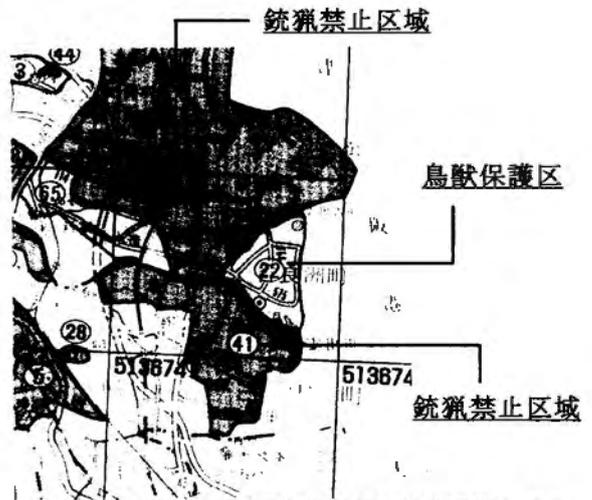
前号の特集中の記事(9針)について、以下の通り訂正・補足いたします。

◇五主海岸についての記述、「鳥獣保護区等ではない」とありますが、参照した資料が古かったため、平成10年度より、ほとんどの部分が鳥獣保護区または銃猟禁止区域となっています。詳しくは右図をご覧ください。

◇野鳥の愛玩飼養許可について、マヒワ・ウソ・ホオジロ・メジロの4種とありますが、昨年11月に出了た、改正鳥獣保護法の「鳥獣保護事業計画の改定基準」で、メジロ・ホオジロの2種のみが都道府県知事の許可により飼養可能な対象となります。三重県の環境部「自然環境課野生生物・自然ふれあいグループ」によると、4月から県でもこの方針通りになるとのことでしたが、なお1歩進めて、次

の事業計画(平成14年度より実施)では2種から0種にしたいものです。

支部では、先ごろ知事に提出した「鳥獣捕獲許可権限委譲の条例化に伴う野生生物保護行政に関する要望書」中でも、野鳥の愛玩飼養をなくすべく働きかけています。



平成11年度版「三重県鳥獣保護区等位置図」より

お願いとおことわり

次号特集は20世紀最後の年にちなみ(?)「MY BEST BIRD」です。野鳥観察をはじめたきっかけとなった鳥、毎年底に来るお気に入りの鳥、今までで一番印象に残った野鳥との出会い、思い入れのある鳥、などについてのエッセイを募集します。締切りは4月末です。

なお、原稿について質問やお願いがある場合のほか、原則としてお返事等はさし上げておりません。ご了承下さい。また、文章の内容を変えないように削除・加筆する場合があります。誌面や投稿についてのご連絡は郵便・ファックス・Eメールでお願いいたします。

■「しろちどり」投稿の宛先は…

小坂里香

電話・ファックス

E-mailアドレスが変わりました。

ご面倒ですがこちらにおねがいします。

コピイプの方は まで…

お知らせ

第一回 三重バードカービング展開催

この春、三重バードカービング協会主催による「第1回三重バードカービング展」が開催されます。

バードカービングとは木彫りの鳥に彩色を施して仕上げる精巧な工芸品で、近年は剥製の代わりに博物館に展示されるなどしています。素晴らしい作品の数々を是非、ご鑑賞下さい。

開催期間…平成12年4月4日(火)～4月9日(日)  
10:00時～17:00時(最終日は16時)

会場…NHK津放送局津ギャラリー  
(津市丸の内養正町4-8 TEL 059-229-3012)

なお、出展作品も募集中です。出展ご希望の方は下記までお問い合わせ下さい。

三重バードカービング協会事務局

稲垣 裕さん( )または  
山上敏樹さん( )まで

事務局日誌

11月13～14日	日本野鳥の会中部ブロック会議(於新潟県・市川副支部長出席)
11月18日	建設省・水辺探検クラブ(宮川鳥類調査)行事(リーダー6名派遣)
11月23日	三重県支部1999年度第3回理事会
12月6日	「鳥獣捕獲許可権限委譲の条例化に伴う野生生物保護行政に関する要望書」を三重県知事に提出。《保護部》
1月14～17日	三重県の委託事業「平成11年度ガン・カモ類一斉調査」を実施《研究部》
1月30日	◇ジャスコ四日市尾平店こどもエコクラブの自然観察会(リーダー2名派遣) ◇みえ出前トーク「宮川流域ルネッサンス事業『フィールドミュージアム』について」開催(保護部・松阪地区・南勢地区)

魅惑<sup>3</sup>

青木 恵子 (鈴鹿市)

犬の散歩に出かけた休日の朝、いつものコースの小さな橋にさしかかった時、何気なく用水路に目をやると、ほんの5メートルくらい先をさっと鮮やかなコバルトブルーがよぎりました。「カワセミ！」心の中で歓声をあげ、落ち着いて確認すると間違いありません。川岸のポプラの枝にとまりました。大急ぎで双眼鏡を取りに帰り、戻るとまだいます。2、3回川面に飛び込み獲物をゲットしました。拡大し

て見とれていると、ファイナダーの中にジョウビタキ(メス)が入ってきました。少し遅れてキセキレイも…。カワセミは2羽が来てすぐに「邪魔しないで！」とでもいうように「チチチッ」と鋭く鳴いてポプラの木の上の方へ移動してしまいました。残った2羽は時折ちょんちょんと尾を下げながら、地面に落ちている木の実をついばんでいます。5分程して、「チチチッ」と鳴きながらカワセミが戻ってきました。「邪魔してごめん、ごめん。」というかのように2羽は飛び去り、カワセミはま

たハンティングを始めました。そして満腹したのでしょうか、スーッと空のかなたへ飛び去りました。たった20分間のドキュメンタリーでしたが、「タイタニック」よりも「インディペンデンスデイ」よりも、ランクは上かも(?)私にとってはかけがえのない、まさに至福のひとつでした。

◇入会半年の新参バードウォッチャーです。野鳥関連の情報交換をお願いします。

Emailアドレス

連載・ポーポー日記 其の巻

私は家ではポーポーとよばれている。娘がつけたものだが理由は良く分からない。多分いつもDOTERAを着てポーとしていること、ふくろうが好きで木彫りのふくろうを集めていることなどがその理由かもしれない。鳥が好きで生活の一部になってしまっただけの時間がたつ。今回日記の形でその一部を紹介したいと思う。



※編集部注・今号から4回連載します。

- 1月〇日 カウンターを買った。前から欲しいと思っていた。といってもNHK紅白歌合戦のときに赤白の旗を数えるわけではない。1月15日のガンカモ調査に使うためである。これをカチャカチャやっているといかにも調査をやるぞという気持ちになってくるのが我ながらおかしい。でも実際の調査では使う必要なんか無かった。あっという間に数が数えられるほどしかなかったのだ。これは悲しいことであった。
- 2月〇日 寒いときはそとへ出たくない。以前は暇さえあれば鳥を見にいった。一つずつ新しい鳥が増えていくのが面白かった。最近は探鳥会にいくだけ。Kさんは「外へ出なければ新しい発見はない」と正しい事を言う。でも寒いときはDOTERAを着てストーブの番をしているのが僕は好きだ。
- 3月〇日 シロチドリが繁殖する砂浜に人や4輪駆動車が入らないように木の杭を打って網で周りを囲う作業に出る。木の杭をカケヤで打ち込む作業は野鳥の会で唯一男性会員が活躍できる場である。花粉症と戦いながらそれでも2個所の繁殖地を網で囲った。たくさんのシロチドリが営巣することを願いながら。
- 4月〇日 保護部の活動で里山に住む野鳥の調査に行く。途中で里山の保護活動に取り組む人に会った。鎌で草を刈り、掃除をし、人に楽しんでもらうための広場を作ると聞いた。その人にカシミサンショウウオの卵を見せてもらった。口で自然保護を言うのは簡単だけど実際に行動する人であって心から感動した。
- 4月〇日 オオアカゲラの巣が伊勢奥津にあると人伝てに聞いて、さっそく出かけてみた。それは道の両側にある桜の古木にあった。すでに先客のカメラマンが居て民家の庭先から望遠レンズを構えている。我々も家の人に断って庭先にいれてもらう。その時家の奥さんが出てきて「草餅があるが要らんかねー」。客寄せパンダならぬ客寄せアカゲラのお粗末。

橋本 富三 (津市)

その4

The Sence of Wonder  
自然再発見

このコラムは、今号で最終回です。  
執筆者の加藤さん、読者の皆さん、  
ありがとうございました。

● クスノキ ●

常緑高木であるクスノキは、漢字では楠もしくは樟と書く。樟脳の原材料、建築材、船材として利用されてきた。樹木の生長はゆっくりとして幹を太らせ高木となる。県内にはクスノキの大木が各地で見られる。特に三重郡楠町のクスノキの大木は天然記念物に指定され、近鉄電車からよく見える。

ここでは自然観察の対象として、社寺林や街路樹によく見られるこのクスノキを周年観察することにしてしよう。まず今の季節の冬、小さな枝をじっくり見てみよう。枝の先端に冬芽が形成されている。新しい葉の赤ちゃんが冬眠しているのだ。また、葉に黄緑色の蝶の蛹がかっついているのが見つかることがある。これはおそらくアオスジアゲハの蛹だろう。この蝶はクスノキ科の葉を食草としており、その葉に卵を産み付け、蛹の状態で冬越しをしているのだ。春、赤みを帯びた新葉が大きく成長すると、古い葉はいっせいに落葉し、初夏に黄白色の花を付け、やがて黒くて丸い果実を結ぶ。我が家の庭にクスノキが樹高1メートルになっているが、植えた覚えがない。おそらくムクドリかヒヨドリが柿の実を啄みに飛来したとき「うんち」の置き土産の中にクスノキの果実があったからだろう。

私は風邪で鼻が詰まると、クスノキの葉を揉んであてることにしている。

文：加藤 光廣（桑名市）

イタチのエサ運び

山川 尚子（伊勢市）

2月3日、この日も野鳥の会のメンバーと内宮から五十鈴川に沿って上流へ向かって歩き始めました。

鏡岩に通じる飛び石のところで、カワガラスやコサギを見ていたとき、誰かが反対側にいたアオサギの近くでヤマセミの飛び立つのを見つけ、初めて見るヤマセミに感激しました。

でも、この日はそれだけではありませんでした。イタチが魚

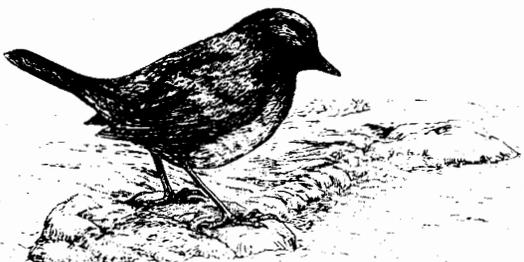
を運んでいる光景に出会ったのです。ほら穴のようなどころから魚をくわえて、少し上の巣穴へ運んでいる様子です。ほら穴に戻ると、必ず魚を加えてかけ上がり、5回程の往復を確認できました。きっと、昨夜捕って冷蔵庫にしまっていたのかな？

アオバトにも会い、帰りにもルリビタキを見つけ、私にとっては初めて見る鳥との出会いが多く、おまけに珍しいイタチのエサ運びも楽しむことが出来た素晴らしい一日でした。

白米城探鳥会に参加して

高木和夫（伊勢市）

11月13日（土）、前夜来の雨も上がって好天に恵まれ、期待をもって白米城探鳥会に参加しました。頂上付近でスズメバチの巣に会い、しかも道路上にあり大勢の人（子供連れあり）には危険とのことで途中引き返したのは、リーダーの方の正しい判断であったと思います。残念ながら、はじめ野鳥にはあまり会えませんでした。昼食をとったオシドリのいる池ではカラ類等が結構いて、楽しませてくれました。昼食後交流会があり、入会したきっかけが人それぞれであることなど、面白く聞かせていただきました。鳥を愛することは自然も愛することであり、心和むものがあります。山の大好きな私も、今日は秋の空気をいっぱい吸って楽しい一日を過ごさせていただきました。



中部台運動公園

探鳥会に参加して

鈴木 茂子 (松阪市)

曇り空でしたが、約50名が集い、芝生グラウンドの真中のハクセキレイから始まって、野鳥の会のベテランからいろいろな説明を聞きながらマラソンコース沿いに観察。特に、参加して良かったことが3つありました。

一つは、「トビがいる。」「大きさが比較できていいね。」の声に空を見上げると、トビの傍にオオタカがパタパタスーと飛んでいたこと。二つ目は、木の枝にうずくまるように止まっていたアオバト。緑の濃淡が美しく、皆がしばらく、釘付けになったように見入っていました。もっと山の奥にいるものだと思いましたが、こんな所にもと、ちょっとうれしくなりました。

最後は、三羽のバンです。この三羽は、池の土手に上がっていて、しきりとなにか啄ばんでいます。バンの全身が見えたのは今度が初めての経験でした。

三重県に住むようになって20年、バードウォッチング歴1.5年。まだまだ、恵まれた自然(残された自然といったほうがいいのか)に身近に接することができる幸せを感じています。

南島町 野鳥三昧

嶋田 春幸 (南島町)

私は子供の頃から生き物に興味を持ち、今思えば随分と殺生して遊んでいました。言い訳になりますが、これも興味から出たものでいつも凶鑑を眺めては主に水棲の生き物を探しに行ったり、飼育したりしていました。鳥に関しては自分で捕まえることが出来ないこともあって、他の生き物に比べるとそれほど興味を持って探したりしていなかったように思います。

鳥を見る喜びを初めて感じたのは小学校の帰り道にジョウビタキのオスを間近に見たときでした。心の中で「凶鑑に載ってたヤツだあ〜！」(当たり前ですが)と何度も繰り返し感激したことを今もよく覚えています。こんなに明確な色に塗り分けた鳥が身近に実在することや、凶鑑の絵はけっこう正確なこと(疑り深い少年?)に驚いたものです。それからは、カワセミを見てもそんなに驚くこともなく、次々と観察した種類が増えていったように思います。

現在はどうかといいますが、鳥の美しい姿を再現しようと10年くらい前からバードカービングに取り組む一方、春から夏にかけては小鳥のさえずりを、秋は旅鳥や蝶の渡りを見に出かけ、冬はオオワシ・オジロワシ他の

猛禽類を地元で楽しむといったパターンになっています。家内は猛禽よりも水鳥を好み、なかでもバンやオオバンが大好きなようです。

私の住む南島町でも開発が進み、干潟や葦原が無くなり護岸工事で自然のままの水辺が減りつつあります。山は植木業者や採石業者が林道を作り、雨が降るとすぐ川が濁ってしまいます。自然を切り売りしているようで何とも切ない感じがします。

南島町は交通が不便な所で、新しい道が開通するのは便利が良くなり、山道から車が減るので良いのですが使われなくなった旧道はメジロ・ウグイス・オオルリなどの密猟者の天国になってしまいます。過去に私と密猟者の間でトラブルが発生したこともありました。

そこで提案ですが、現在の鳥獣保護区域に設置してある警告文を今風にアレンジしてはどうでしょうか。例えば「密猟者や不審車を見かけたら携帯電話で即通報!」などです。

これを林道の駐車スペースに掲示すれば密猟者は他の車が通るたびに恐れて密猟も減るのではないのでしょうか。

いつまでも豊かな自然が身近に感じられることを願っています。(ホームページアドレス)

●短信・鳥信・びーちくばーちく●

今シーズン冬鳥情報

オジロトウネン 10±  
サルハマシギ 2  
1999年10月末日〜  
中村川中流域(嬉野町)  
ミコアイサ ♂1  
ツクシガモ 1  
2000年1月16日〜  
雲出川河口  
以上 情報提供・久住勝司  
コクガン 1  
1999年12月19日〜  
長太海岸(鈴鹿市)

コオリガモ ♂1  
1999年12月14日〜  
鈴鹿川河口  
ズグロカモメ 4  
2000年1月14日〜  
鈴鹿川河口  
以上 情報提供・高和義  
ズグロカモメ 1  
1999年12月23日〜  
鈴鹿川河口  
ミコアイサ ♂3  
2000年1月6日〜  
ツアリナ調整池(伊勢市)  
以上 情報提供・林 淳子

ヒクイナ 1  
2000年2月13日〜  
勢田川・八束橋(伊勢市)  
情報提供・山田 昭子  
トモエガモ 8  
2000年1月10日〜  
ちとせの森の池(松阪市)  
ミコアイサ ♂1  
2000年1月23日〜  
三雲町養魚池  
以上 情報提供・中村洋子

探鳥会報告(1999年11~2000年1月分)

●第1土曜斎宮池探鳥会(明和町)

日時:11月6日(土)8:45~11:00

担当:西村泉・山田昭子

参加者:9名

観察種:26種

シヨビタキ3・ウグイス4・モズ3・ヒヨドリ7・セグロセキレイ1  
 カラヒバリ3・ホシヅメ1・ハイタカ1・アオジ4・カウ1・ハクセキレイ2  
 ヒンズイ2・カシラダカ群・ツグミ1・カイツブリ3・カワセミ1  
 ヒトリガモ40・エナガ1・コガラ1・キセキレイ1・キジバト1  
 シジュウカラ2・ヤマカラ2・メジロ3・ハシボソガラス4・ハシブト  
 ガラス4

\*池にはバス釣り客も来ていた。池周辺には釣り客が捨てたゴミも多い。

●白米城探鳥会(松阪市)

日時:11月13日(土)9:50~14:00

担当:中村洋子・谷口ひろ子

参加者:24名

観察種:20種

シヨビタキ・キジバト・ヒヨドリ・カワセミ・ウグイス・シジュウ  
 カ・メジロ・コガラ・ハシブトガラス・ハシボソガラス・スズメ  
 ヤマカラ・エナガ・キセキレイ・オトリ・カイツブリ・ハクセキレイ  
 モズ・アオジ・カラヒバリ

●海蔵川探鳥会(四日市市)

日時:11月19日(金)10:00~12:00

担当:尾畑玲子・木村京子

参加者:11名

観察種:29種

カイツブリ5・カウ1・コサギ・ダイサギ1・アオサギ1・イカル  
 トリ1・ケリ・イソギ1・バン・セグロセキレイ2・キセキレイ  
 ハクセキレイ・キジバト・ヒヨドリモズ・カワセミ・ツグミ1・シヨ  
 ビタキ1・カsp1・ホシヅメ・ウグイス1・エナガ・ハシボソガラス  
 スズメ・カラヒバリ2・シジュウカラ・シメ1・ヒバリ1

●伊賀町三ツ池探鳥会(伊賀町)

日時:11月23日(火)10:00~13:00

担当:前澤昭彦・塗矢博一

参加者:12名

観察種:31種

イソギ2・マガモ3・キンクロハジメ1・村カガモ1・カイツブリ  
 16・ホシヅメ8・カヨシガモ2・ダイサギ1・ケリ2・ホシヅメ8  
 カウ6・ハシブトガラス多数・ヤマセミ1・カラヒバリ2・ハシボソ  
 ガラス多数・カモ2・ハクセキレイ16・セグロセキレイ8・カワセミ2

(三ツ池)

シヨビタキ1・ルビタキ?1・コガモ20・ハシボソモ1・カ  
 イツブリ6・バン1・モズ1・アオサギ10・カウ10・カワセミ1・トビ  
 キジバト8・スズメ多数・トバト多数(通り池)

カモ2

(真泥池)

\*真泥池は釣りボートが入るため探鳥会を見送った。覗いてみるとカモ2羽のみ。早く柵をするように大山田村に要望中。

●木曾岬干拓地探鳥会(木曾岬町・愛知県弥富町)

日時:11月28日(日)9:00~12:00

担当:村田芳雄・近藤義孝

参加者:34名

観察種:40種

ホシヅメ45・カヨシガモ6・カモ10+・ハシボソモ8  
 コガモ11・コイサギ25・シヨ3・ユリカモ5・ダイサギ5  
 ハクセキレイ12・トバト200+・カウ300+・チウゲンボウ2  
 チュウビ2・オオカ1・ヒバリ20+・ハヤブサ1・キジ2・ツルシギ1  
 ツグミ25・シヨビタキ2・カイツブリ2・アオサギ3・スズメ250+  
 ヒトリガモ2・ヒヨドリ50・コサギ13・ムクドリ64・モズ2  
 キジバト20+・カワセミ2・ノスリ1・トビ1・ハシボソガラス200+  
 イソギ1・タケトリ3・ハシブトガラス10+・カラヒバリ1  
 村カガモ1

\*愛知県野鳥保護連絡協議会との合同探鳥会。

第2名神の工事や焼却場のための埋め立てなどが進み環境は悪化している。長い間放置されている干拓部分の海(干潟)への復元が協議会を中心に提起されている。

●里山の野鳥観察会(四日市市)

日時:9月11日(土)9:45~12:10

担当:木村京子・尾畑玲子

参加者:14名

観察種:19種

キジバト3・オオカ1・シロハラ5・モズ5・ウグイス6・ヤマカラ  
 ハシブトガラス4・ハシボソガラス3・カシラダカ1・ヒンズイ1  
 カラヒバリ1・メジロ4・ケリ1・アオジ1・シヨビタキ1・ツグミ  
 ハイタカsp1・ヒヨドリ27+シジュウカラ1

●第1土曜斎宮池探鳥会(明和町)

日時:12月4日(土)9:04~11:30

担当:西村泉・山田昭子

参加者:6名

観察種:23種

ダイサギ9・アオサギ1・ハクセキレイ2・モズ2・アオジ5・ホ  
 シヅメ2・ヒヨドリ3・ウグイス1・シロハラ1・カラヒバリ1・メジロ13  
 キジバト4・ミヤマホシヅメ3・トビ2・カウ3・セグロセキレイ1  
 アカハラ1・シヨビタキ1・カワセミ1・ハシボソガラス・ハシブト  
 ガラス合計100+

●揖斐川探鳥会(多度町)

日時:12月5日(日)9:30~12:00

担当:近藤義孝・村田芳雄

参加者:12名

観察種:31種

コガモ100・カハシメ2・ヒトリガモ5・カウ1000+・ユリカモ2  
アオサギ5・ダイサギ3・コサギ2・コトドリ2・タゲリ20+・ケリ3  
イシギ1・タシギ2・ノスリ1・チュウビ1・ジョウビタキ1・モズ3  
キジバト10・ハセキレイ1・セグロセキレイ1・オジロユリ1  
オシロイ1・ツグミ4・ヒヨドリ20・シジュウカラ1・ムクドリ50+  
カラビワ20+・スズメ200+・ハシホソギ10・トビ50

●神路ダム探鳥会 (磯部町)

日時: 12月12日(日) 9:00~12:00

担当: 中村みつ子・松本恵理子

参加者: 34名

観察種: 26種

オシロイ・ミミカイツブリ・マガモ・ハシホソギ・ムクドリ  
カイツブリ・カウ・ハシホソギ・スズメ・コサギ・カラビワ・ヤマカ  
ヒヨドリ・ノスリ・ウグイス・キセキレイ・アオシロ・ハシホソギ・エナ  
シジュウカラ・コゲラ・ジョウビタキ・ウツボドリ60~70  
アオサギ・シロハラ

\*狩猟期の日曜日だったのでハンター(主にイシシ狩り)が多く、その行動には目に余るものがあり、犬も多くて怖かった。あらためて狩猟のあり方に疑問を感じました。

\*12月24日、南勢地区有志で南勢志摩県民局生活環境部へ出向き、磯部町役場農林課の担当者を変えて神路ダム周辺の禁猟区指定を要望した。

●安濃ダムオシドリ探鳥会 (芸濃町)

日時: 12月23日 10:00~12:00

担当: 平井正志・斎藤加代子

参加者: 35名

観察種: 15種

オシドリ・マガモ・カセミ・キジバト・ハシホソギ・シヨウビ  
タキ・モズ・セグロセキレイ・カハシメ・オシロイ・カウ  
カイツブリ・カラビワ・キセキレイ

\*お目当てのオシドリは非常に多く、170羽を数え、安濃ダムでの最高記録となった。

●二ツ池探鳥会 (伊勢市)

雨のため中止

日時: 1月6日(木) 9:00~11:30

担当: 吉居瑞穂・林淳子

●安濃川河口探鳥会 (津市)

雨のため中止

日時: 1月23日(日) 9:30~12:00

担当: 橋本富三・西浦克征

●中部台運動公園探鳥会 (松阪市)

三重動物学会と合同

日時: 1月30日 9:30~11:30

担当: 谷本勢津雄・西村四郎

参加者: 42名

観察種: 27種

ハセキレイ・スズメ・ヒヨドリ・シロ・カウ・カラビワ・ジョウ  
ビタキ・ツグミ・マガモ・カハシメ・エナシ・ハシホソギ・ムク  
ドリ・オシロイ・アオサギ・アオバト・キジバト・キセキレイ  
アオシロ・ヒンズイ・ヤマカハシ・ハシホソギ・カセミ・シロハラ  
ウグイス

●愛宕川・櫛田川シギ・チドリ探鳥会

前号発行時報告未着分

日時: 99年8月29日 10:00~12:00

担当: 谷本勢津雄・西村四郎

参加者: 17名

観察種: 26種

コサギ・ケリ・ツグミ・スズメ・アオサギ・アオシロ・チュウビ  
ダイサギ・アオサギ・コトドリ・ハセキレイ・キアシ・ツリハ  
シギ・カウ・カハシメ・カイツブリ・キジバト・セッカ・ハシホ  
ソギ・ムクドリ・アオシロ・カセミ・ムクドリ・トビ・コサギ  
ハシホソギ

\*愛宕川は悪臭がひどいので、川の中に杭を打ち川の流れを早くし、水路は狭くなっております。今後どのようなようになるのか、考えさせられました。  
報告・中村洋子

**編集後記** 今号は少し遅れましたが、何とか1年間、無事に「しろちどり」を発行することが出来ました。執筆者の皆さん、編集部スタッフ(プラス我が家族)、そして読者の皆さんのおかげと感謝しております。

最近、子どもや動物など、弱いものを標的にした陰湿な事件が多くなっています。パソコン、携帯電話など便利な道具が増えて行く一方で、ゴミやエネルギーの消費も増大するばかり。これからどんな世の中になっていくのでしょうか。そういえば、愛知万博、少しはいい方向に運びそう。関係者の皆さんの努力の賜物ですね。三重の祭り博跡地の惨状、県財政のお荷物となったサンアリーナを瀬戸の人にも見せてあげたいです。原稿鳥

しろちどり 第26号 2000年2月発行

題字 濱田 稔

表紙絵 市川 雄二

カット 山田昭子・鹿島素子

編集 小坂 里香

発行者 (財)日本野鳥の会 三重県支部

杉浦 邦彦方

〒516-0026 伊勢市宇治浦田2丁目9-4

印刷 館 印刷

〒510-1321 三重郡菰野町田口1903-3

●本誌掲載記事の無断転載を禁じます。●